

## 令和7年度 自己評価報告書

令和7年度、本校では自己評価として、大項目として6項目、

I 重点目標 II 指導の重点 III 教育課程 IV 指導計画 V 生活指導 VI その他

について振り返りを行い、次年度に向けた改善点を検討し、教職員で共通理解を図っています。この他、保護者や児童の学校評価とほぼ同じ設問となる自己評価を行っています。

保護者、児童、教員では主語や言葉の使い方が異なるので、

- ・【児童】わたしががんばったことやできたことを、先生は認めてくれる。
- ・【保護者】子どもががんばったことやできたことを、先生は認めている。
- ・【教員 指導者視点】わたしは、子どもががんばったことやできたことを認めている。
- ・【教職員 学校全体視点】尾山台小は、子どもががんばったことやできたことを認めている。  
(教員は指導者視点と学校全体視点の2つを回答しています)

このように、多少設問の文章は異なりますが、同じ内容を視点が違う4者が回答している設問が19問、その他に、児童と教員・教職員の3者が回答している設問が11問あります。今年度より区の共通設問の形が変わりましたので、昨年まで40問以上の回答をお願いしていたのを、保護者の皆様には19問、教員・教職員と児童の設問も30問としました。

昨年までなかった設問として、

- ・学ぶことが楽しい(区内全学校共通設問)
- ・教育目標の設問4つ(すすんで学ぶ子 あかるい心をもつ子 しょうぶな体をつくる子 なかよく力をあわせる子 に向けた指導ができているか。)
- ・校内研究に関わる設問4つ(キャリア教育 つながる力、見つめる力、たかめる力、ゆめにむかう力の育成に向けた指導ができているか。自己肯定感が高まっているか、ほめて認めて伸ばす指導ができているか。)
- ・日記・読書についての設問3つ(日記を書いているか、本を読んでいるか、図書館を利用しているか。)

を入れました。

教員の評価で肯定的評価(A・B)が9割に達していない設問が5つあります。

- ・【教員】私は、子どもが本を読むことを好きになるように指導している。81%
- ・【教員】私は、子どもが家で学習する習慣をつけられるように子どもに指導する、親へ呼びかけ

る、などをしている。84%

- ・【教員】私は、子どもが日記を書くように指導している。66%
- ・【教員】私は、子どもが図書館に行って本を読むような環境づくり（授業の課題、呼びかけや宿題等）をしている。59%
- ・【教員】私は、子どもが家で本を読むように指導をしている。59%

この中で、日記指導、図書館指導、家庭での読書指導は教員が苦勞している様子が見えます。保護者の肯定的評価（A・B）は以下のようになります。保護者の設問は多すぎるという意見を反映して減らしてありますので、読書が好きか、家庭で勉強しているか、の2つとなります。

- ・【保護者】子どもは本を読むことが好きだと思う。59%
- ・【保護者】子どもは家で勉強する時間をとっている。83%

お子さんが家庭で勉強している、という実感は、教員の指導の実感と似た数値になっていますが、読書に対する肯定的な思いは、20%以上の差が出ています。家庭で読書をする環境づくりは学校よりも厳しい状況であることがわかります。昔と異なることの一つに、子どもに様々な選択肢が増えたことがあります。私が子どものころはコンピュータもタブレットもなく、テレビも一家に一台、ラジオは好きだったので自分のものをもっていましたが、音楽を聴く機械（当時はカセットテープでした）も一台でした。今はタブレット（iPad）が全児童に貸与され、宿題もタブレットで行うこともあります。読書という環境を作ることは昔とは異なり、とても難しいことなのだ実感します。これは家庭だけの課題ではなく、学校も一緒に考えていく必要があります。学校での読書の時間をもっと増やすことも検討事項となるでしょう。

児童の回答を見てみましょう。

- ・【児童】わたしは本を読むことが好きだ。75%
- ・【児童】わたしは家で勉強している。86%
- ・【児童】わたしは、家で日記を書いている。66%
- ・【児童】わたしは、図書館に行って本を読んでいる。55%
- ・【児童】わたしは、家で本を読む時間をとっている。66%

児童の回答は教員の回答と似ています。読書が好きかどうかについては、教員や保護者よりも高い数値が出ています。大人が思っているより、子どもは読書が好きなのかもしれません。

さて、日記と図書館の指導においては、肯定的回答が9割以上の学級から、半分に満たない学級と差が出ています。これは学年に応じた指導のしやすさ、というものがあると同時に、学級での指導の在り方にも関係していると言えます。学習指導要領をもとに、日記や図書館の指導について校長が明確に言葉にしたのは令和7年度からです。今年度の反省から、日記や読書についての意識が高まることを期待しています。

本校が大切に、力を入れているキャリア教育に関わる項目を見ていきます。

この項目は保護者の方の設問にはありません。

比較しやすいように、児童視点と教員視点とを並べてみます。

・【児童】わたしは、人とかかわりの中で自分が伸びていると感ずることがある。(つながる力) 88%

・【教員】私は、子どもが人とかかわりの中で成長するように指導している。(つながる力) 100%

・【児童】わたしは、自分のよいところ、得意なところがわかってる。(見つめる力) 90%

・【教員】私は、子どもが自分のよいところ、得意なところがわかるように指導している。(見つめる力) 97%

・【児童】わたしは、自分ができるところを増やしたいと思っている。(たかめる力) 94%

・【教員】私は、子どもが自分自身でできるところを増やそうとするように指導している。(たかめる力) 97%

・【児童】わたしは、こんな人になりたい、こんな人生を送りたいという目標をもっている。(ゆめにむかう力) 88%

・【教員】私は、子どもが自分はこんな人になりたい、こんな人生を送りたいという目標を持てるように指導している。(ゆめにむかう力) 94%

・【児童】わたしは、みんなの役に立てたな、ここにいていいな、できたなと感ずることがある。(自己肯定感、自尊感情、自己有用感) 85%

・【教員】私は、子どもがみんなの役に立てたな、ここにいていいな、できたな、と感ずられるように指導している。(自己肯定感、自尊感情、自己有用感) 100%

・【児童】この学校には自分の生き方や将来のことについて考える授業がある。85%

・【教員】私は、自分の生き方や将来のことについて考える授業をしている。94%

・【児童】わたしががんばったことやできたことを、先生は認めてくれる。87%

・【教員】私は、子どもががんばったことやできたことを認めている。97%

・【児童】わたしは先生にほめられたことを覚えている。82%

・【教員】私は、子どもの記憶に残るくらい力強く子どもを認め、ほめている。91%

教員は、高い意識を持って指導していることが分かります。また、教員より数値は低いですが、児童にもおおむね届いていることがうかがえます。数値としては低すぎるわけではないですが、この中で、ほめられたことの記憶について、教員と児童とで10%ほどの開きが見えます。もっとほめないと子どもには伝わらない、ということが分かります。よい行いは力強く認め、はげまし、褒めること。次年度はこの学校評価を反映できるように尾山台小学校の教職員一同、取り組んでまい

ります。

地域の方からの評価は設問が異なります。私は6地区、7つの学校を回っていますが、どの学校でも言われることとして、学校公開のような場でないと学校に入ることを遠慮する、というものがありませんでした。今回、学校公開や行事等で顔を出しやすい、という設問で、8割以上の肯定的評価をいただきましたが、A とても思うは2番目に低く、D（思わない）はありませんでしたが、C（あまり思わない）は17%と最も高い数値でした。私が子どものころは、校門は常に開いており、校舎のトイレも解放されていました。安全面の強化から年々学校に入りにくくなっている面はありますが、今年度も尾山台小学校にて、地域の運動会や防災訓練を行っています。これからも地域の方に来ていただける機会を探していきたいと考えています。

気になることとして、尾山台小学校の子どもたちは、交通ルールを守っている、という設問に対して、肯定的評価（A・B）は93%と高い数値の回答をいただいておりますが、実は、A（とても思う）の数値が一番低いものになっています。（肯定的評価93% A とても思う21% B 思う72%）これは、基本的には守っているけれど、気になるところがあるよ、ということだろうと思っています。というのは、今年度も地域の方から、タブレットを見ながら下校している、何人かで道を広がって歩いている、というお声をいただいたことがあったからです。また、校内でも、下校時に急に走り出したり、お店の前でしゃがんでいる子を見たりという情報が出て、各学級で指導をしたこともありました。命にかかわることですので、交通ルールに関しては継続して指導をしていきます。また、目黒通りと環状八号線の外から通う学区外のお子さんの場合は、繰り返しご家庭での注意喚起をお願いいたします。

最後になりますが、令和7年の4月に、トンネル山の岩の落下での事故がありました。安全管理についての反省、見直しをしているところです。申し訳ございませんでした。安心・安全の項目は児童（R6 90%→R7 86%）保護者は（R6 91%→R7 86%）とも数値が下がっています。区の教育委員会と共同で、遊具を中心に施設面の安全管理、点検を行い、今後古くなっていくことを想定し、次年度の夏季休業中にトンネル山周辺（遊具や樹木を含む）を整備する方向で進めています。具体的には、現在のトンネル山を解体し、ジャングルジムと登り棒をトンネル山の場所に設置、樹木の移設、砂場の移動、ブランコの撤去、等となります。その他、体育館の空調の増強、LED化していない教室のLED化（照明）も進めていきます。本校の安全管理上課題であった通用門や土日の校舎の開放、給食室についても、3月に工事が完了しますので、4月からはより安全を意識した形での運用ができます。一部、これまでの使用の仕方の方がよかった、不便になったということもあるかと思いますが、安全・安心の課題への対応として、議会で承認され、予算が付けていただいている工事が進んだものです。令和7年度は、児童がいる時間に、保護者ではない方で名札もない方が退出してくださらないことで110番をしたこともありました。どうぞご理解いただけますよう、お願いいたします。